



このように出題されています
過去問題練習と解説

問 1

(IP-H25-S-9)

製品Aの生産及び販売に必要な固定費は年間3,000万円である。製品Aの単価が2万円、生産及び販売に掛かる1個当たりの変動費が5,000円であるとき、製品Aの損益分岐点における販売個数は何個か。

- ア 1,500 イ 2,000 ウ 4,000 エ 6,000

解説

正解：イ

製品Aの変動費率は、1個当たりの変動費(5,000円)÷単価(2万円)=0.25です。損益分岐点売上高をXとすると、 $X = (X \times \text{変動費率} : 0.25) + \text{固定費} (3,000\text{万円})$ であり、式を整理すると、 $X = 0.25X + 3,000\text{万円} \rightarrow 0.75X = 3,000\text{万円} \rightarrow X = 4,000\text{万円}$ になります。したがって、製品Aの損益分岐点における販売個数は、4,000万円÷単価(2万円)=2,000個です。

問 2

(IP-H23-S-21)

製造・販売業A社の損益分岐点売上高を下げる施策として、最も適切なものはどれか。

- ア 現状と同一の設備を追加し、生産量の増加を図る。
イ 人件費の抑制と、間接部門の合理化を進める。
ウ 販売価格は一定のまま、製品の販売数量増大を図る。
エ 販売数量は現状のまま、製品の販売価格を下げる。

解説

正解：イ

損益分岐点を下げるには、固定費もしくは変動費率を下げなければなりません。

- ア 設備を追加すると、固定費が増加するので損益分岐点売上高も上がってしまいます。
イ 人件費の抑制と間接部門の合理化を進めれば固定費が削減されるので、損益分岐点売上高は下がります。なお、生産・販売量を維持したまま、残業時間や休日出勤を減らせるのであれば、変動費も削減され、さらに損益分岐点売上高は下がります。
ウ 販売価格は一定のまま、製品の販売数量を増大させると利益は増えますが、損益分岐点売上高は変わりません。
エ 販売数量は現状のまま、製品の販売価格を下げると変動費率が相対的に上がり、損益分岐点売上高も上がってしまいます。